

森の通信

宮崎県
総合博物館だより
第5号

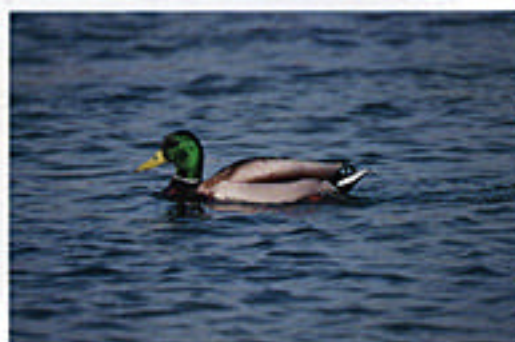
The Miyazaki Prefectural Museum

発行日/昭和63年10月20日

発行/宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮2丁目4の4 TEL (0985) 24-2071

特別展「大淀川の自然」昭和64年1月21日(土)オープン!!

～ふるさとの川に生命の営みを探る～



右・マガモ(オス)
左・ミヤコグサ

大淀川は宮崎市に河口を持ち、支流の数119本、県内だけでも14市町村を通過する県下最大の川です。

この大淀川流域にはアユやコイなど多くの魚がすみ、冬は水鳥たちの楽園となっています。また河原や堤防には四季折々の草花が生い茂り動物たちの格好のすみかとなっています。

このように豊かな自然を持つ大淀川も、ひところ水質の汚染がすすみ社会的な問題となりましたが、これらの生物の命が川の運命と共にあることを忘れてはなりません。

本展では、大淀川に生息するほ乳類・鳥類・

は虫類・両生類・魚類・昆虫類などの動物や四季の草花などを標本や写真で紹介し、あわせて人間とのかかわりあいも探っていきます。

会期

昭和64年1月21日(土)～2月19日(日)
午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
休館日－1月23・30日 2月6・13日

入館料

大人 300(250)円
高大生 200(150)円
小中生 100(50)円

※()内は、団体(20名以上)の割引料金

(斉藤)

炭 焼 用 具 (昭和64年1月29日まで展示)

日向木炭が中央に知られるようになったのは江戸時代中ごろで、正徳3年(1713)に出された和漢三才図会に「堅炭 紀之熊野・日向・五島・平戸皆櫟炭也 故称堅炭」とあり日向の名が出ています。

中でも最良の木炭といわれる櫟小丸は京で好まれ、京都で消費される木炭のほとんどは日向木炭であったと言われています。

日向国では延岡藩が最初に木炭生産を手がけ、薩摩領では高岡あたりがそれに続きました。平野部に近い山村で始まった木炭生産も、明治・大正と時代が代るにつれ、道路が整備されて、米良・椎葉・諸塚など奥山へと生産の中心が移りました。日豊本線が開通すると、市場もそれまでの京都・大阪などの上方から東京方面まで広がりました。

県内での木炭生産は、昭和17年の8万2千トンピークに統制経済で同20年には2万5千トンと減少し、戦後一時生産量が増えますが、昭和30年代、石油によるエネルギー革命が始まり、



(木炭の選別 木城町中之又 長友秀雄氏)

燃料源が都市ガス・プロパンガス・灯油・電気になり、木炭生産は急激に減少していきました。

このコーナーは、かつて全国に知れわたった日向木炭の最盛期を偲び、生産に使用された諸用具を展示するものです。(前田)

森のゼミナール

小石は何を語るか



ここに紹介するのは、何のへんてつもないた

だの石ころです。ところが、よく観察すると(カラー写真でお見せできないのが残念ですが)表面に赤い粉と白っぽい土が付着していることがわかります。赤い粉は酸化鉄から作られたべんがら、白い土は粘土なのです。西都原13号墳から掘り出されたこの石ころから、死者を収めた木棺は粘土でおおわれ、さらにその上に小石をまんべんなく敷き詰め、べんがらをまいたことが読み取れます。西都原一帯を治めていた首長が葬られる時、彼の配下にあった人々は、酸化鉄を焼いてべんがらを作り、粘土や川原の石を運び、ていちょうに埋葬したに違いありません。これらの物を運びながら彼らはいったい何を思っていたのでしょうか。死んだ首長をしたう悲しみでしょうか。あるいは先行きの不安でしょうか。ただの石ころから想像は大きくふくらみます。(石川)

夏休み自然観察会に参加して

門川町 草川小3年 曾根田 千里

わたしは、8月7日に神宮の森のしぜんかんさつ会に行きました。わたしは、3年生の植物はんです。ここにどのくらいの植物があるのかなと、思いました。さいしょは、「ヤマノイモ」を先生がとりました。また、「カエデドコロ」と「ヒメドコロ」も全部ヤマノイモ科です。

次にだれかが「ヘクソカズラ」を見つけました。これは林の所に生えていました。林の道を歩いていると「ウマノミツバ」がありました。ウマノミツバのウマというのは、ミツバのなかでも食べられないそうです。ほかにサルなどついているものも食べられないそうです。とった植物は、ラベルに和名を書いてビニールブックロに入れました。

その日にわたしは、いろいろな和名、科名を知ることができました。神宮の森は、植物や草花もいっぱいあったので、びっくりしました。そして、こんどは、家のまわりの植物をかんさつしたいです。

宮崎市 大宮小4年 湯地 憲一

ぼくは、8月7日、日曜日に、はく物館であった、自然かんさつ会に行きました。

ぼくは、こん虫を調べるはんを選びました。ぼくたちは、3年生から4年生までのはんで、4年生は、ぼく1人で、あとは、みんな3年生でした。ぼくは、宮崎神宮に家が近いので、道

順を大体知っていました。

東えんや、鳥居の所にも、行きました。ぼくは、チョウを2ひきつかまえました。バッタは、にがしてしまいました。毛虫みたいなものもいたり、葉にカーテンを作り、てきにおそわれないように、身を守る虫もいました。

雨がふって、虫があまりいかなかったけど、先生が、チョウのことをいろいろ教えてくださいました。最後に、ひょう本作りを習いました。

ぼくは、家で、ヒラタクワガタのひょう本を1つだけ作ってみました。

宮崎市 穂中1年 瀬戸山 由美

中学校で理科の宿題が「植物採集」でした。でも、やり方がわからず、母に言うと、「これに和君(弟)と行きなさい。」

と、見せてくれたのが「自然観察会」でした。申し込む前は、「採集できるかな、友達できるかな。」と不安でした。でも「宿題、できなくなるから。」と思い、おもいきって申し込みました。

8月7日がやってきました。さっそく用意して行きました。幸い同じ学校の人だったので、採集している時、

「これは、こんな名前やったがね。」などいって採集しました。それに先生もやさしく教えてくれたので、楽しく採集しました。「やっぱり来て良かったな。」と思いました。とても良い体験をしたと思います。

好評だった採集作品展

第17回小・中学校児童生徒の採集作品展は、9月27日(火)から10月10日(月)まで開催されました。この催しは、本館が開館以来行っているもので、県内の小・中学校から一般公募しました。本年は、植物標本203点、昆虫標本125点、貝標本50点、岩石・化石標本12点の計390点が集まりました。

作品は8名の審査員で厳選され、特賞4名、

金賞7名、銀賞17名、銅賞36名の計64名が表彰されました。特賞・金賞受賞者は次のとおりです。

〔特賞〕中村俊一(庄内小2年)、笹岡みずき(住吉小3年)、原山寛隆(都城・南小4年)、西浩孝(小林小6年)

〔金賞〕丸山ひろあき(祝吉小2年)、轟木勇哉(祝吉小3年)、西嶋由紀子(庄内小4年)、大浦務(高鍋西小5年)、山田芳子(西池小6年)、神田賢二(西池小6年)、岡村英樹(鞍岡中2年)

第4回 埋蔵文化財センター 施設公開のおしらせ

埋蔵文化財センターでは、センター業務や埋蔵文化財保護の仕事について、県民のみなさまのなお一層のご理解をいただくため、文化財保護強調週間（11/1～11/7）にあわせて、センターの全室を公開いたします。多数ご観覧ください。

- 日 時 昭和63年11月5日（土） 9：00～16：30
入館料は無料です。



〈コーナー展示〉

- 考古 縄文土器の文様 ㊦～㊧
須恵器 ㊨～㊩
歴史 大正・昭和の教科書 ㊪～㊫
屏風と蒔絵 ㊬～㊭
自然 宮崎のヘビ類 ㊮～㊯
宇都野標本（貝類） ㊰～㊱
美術 瑛九銅版画展 ㊲～㊳
見えないものを求めて-抽象画の世界 ㊴～㊵
西都原資料館 千畑横穴墓（西都市） ㊶～㊷
焼畑用具（米良地方） ㊸～㊹
埋文センター 前原南遺跡（学園都市内） ㊺～㊻
（入館料は無料） 車坂城（学園都市内） ㊼～㊽

〈県民文化ホール〉

- 森の名画座 陽のあたる坂道 ㊾・マタギ ㊿
（入館料は無料） カイロの紫のバラ ㊿
森のコンサート 新春邦楽演奏会 ㊿
（入館料は無料） 母と子のための音楽会 ㊿
〈博物館公開講座・森の学習会〉（受講料は無料）
年賀状をつくろう ㊿・宮崎のくらしと照葉樹林文化 ㊿・抽象画の世界 ㊿・大淀川の自然 ㊿

〈埋文センター〉

- 「遺跡をたずねて」映写会
5月を除く毎月第4（12月は第3）土曜日、午後
2時30分から約1時間、入館料は無料
内容 考古学（文化財）およびその関連分野の映画